

平成31年度  
学校関係者評価書

《実施日：令和2年2月14日》

〈専〉京都伝統工芸大学校

開催日時 令和2年2月14日（金）午後3時30分～午後5時00分

開催場所 京都伝統工芸館 8階会議室

出席者 松本 一男 京都府南丹教育局長  
杉島 敬志 放送大学京都学習センター 所長  
三田 康明 京都府男女共同参画センター  
佐藤 幸男 京都府石材業協同組合 顧問  
小山田 玲香 卒業生  
田中 宏明 卒業生田中めぐみさんの保護者  
(学校関係者) 新谷校長 工藤教務部長 近藤事務部長

### 3. 総括

1) 京都伝統工芸大学校の教育成果、学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業、卒業生、父兄の視点から検証を行った。本年度における自己評価は妥当であると判断した。理由として、とりわけ、毎年継続して伝統工芸産業に従事する学生を一定数輩出している点を重視した。受け入れ先の企業、伝統産業の業界、父兄からの評価は良好で、即戦力としての評価もある。ひとえに学生に対して実務教育を施した成果であって、評価するべきである。

2) 本年の議論のなかで、留学生の増加傾向が続き、外国人学生への対応に苦勞しているとの報告があった。外国人留学生の置かれる状況は不確定で、相当な労力を要するものと思われる。そうしたなかでも外国人学生を就職へ導いていることは、当校の教育活動の成果であって評価したい。グローバル化は今後も進展すると予想される。社会の変化に対応できる教育課程の開発が重要となる。課題の改善に向けた取り組みの中で反映させてほしい。

3) また、議論のなかで非常勤講師の割合が多いことが、学校運営における組織整備を困難にしているとの意見があった。委員会としては常勤、非常勤を問わずにファカルティ・ディベロップメントを実施することを手始めに組織の整備を進めていくことを提案した。

4) 議論のなかで、学内の様々な場面で、教員と学生が適切な距離を保ち、学生の特性を踏まえて指導が行われていることが見て取れた。知識の教授や技能の習得のために指導がなされることは当然であるが、加えて思考力・判断力・表現力などの育成につながるものであることが望ましい。そのためには、教職員が学生の「生きる力」をはぐくむ理念を共有し、組織的に継続して取り組む仕組みを作り上げることである。ファカルティ・ディベロップメントの実施を含めて、これからは長期的な視点からの取組みも求めていきたい。

5) 学校関係者評価委員会としては、今後も、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、当校が社会の信頼を得られるようにサポートしていきたいと考えている。

4. 学校関係者評価委員会で検討された事項

検討事項				学校関係者の評価・提言
基準	項目	総括	自己評価	
学校運営	事業計画	学校の運営方針を反映した事業計画を毎年度作成。各部署で目標を達成するよう定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。		適正に運営されている。
教育活動	目標の設定	教育課程編成に当たり、卒業生内定企業から意見聴取し、教育課程に反映させている。各学科の教育目標、育成人材像をできるだけ具体的に示している。		適正に運営されている。
	教育方法・評価等	体系的にステップアップできる教育課程を目指している。卒業生、関連企業等の意見を反映するよう定期的に見直している。学生に対しても満足度を調査し講義方法の改善を行っている。		適正に運営されている。
	資格・免許の取得の指導体制	民間資格、国家資格を活用し、学びの成果を客観化している。		可能な資格・免許を検討したい。
	教員・教員組織	常勤・非常勤講師を問わず、採用・育成の各段階における体制が整っている。年齢構成の均衡については課題が残る。		常勤・非常勤を問わないFDの実施を検討したい。
学修成果	資格・免許の取得率	資格取得者を多く輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。		適性に運営されている。 社会で必要となる資格、就職活動に有利になる資格を研究する必要がある
	就職率	就職希望学生への指導は、就職専任スタッフが個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び		就職率は高い水準で推移している。進路を決定していない在学生、卒業生の指導の更なる向上を期待する。

		能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。 それらの達成状況（就職率）は担当部署で管理されている。		
学 生 支 援	学生相談	学生の兆候を担当が見逃さずに捉え、その都度対応している。節目ごとに個別面接を行い、進路、悩みなど聞きだし対応している。結果は指導記録にまとめ情報共有している。		適正に運営されている。
	保護者との連携	定期的に行っている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接している。もっとも業務時間内の連絡が困難であったり、理解が得られない保護者が増えており、担任の負担が増している。		担当の負担が大きくなると懸念されるが、学校・学生・家庭の方向性が一致した上での指導を継続して欲しい。保護者説明会の実施などは家庭との連携関係構築に大いに資するものとする。
教 育 環 境	防災・安全管理	保険等の加入については十分であるが、それ以前の物的および人的な備えに関して、十分な対応を施していかなければならない。		適正に運営されている。
学 生 募 集	学生募集活動は、適正に行われているか	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、納得のいく進路決定を実現させたいと考える。高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。		適性に運営されている。
	入学選考	学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っている。□		適性に運営されている。

	学納金	多くの家庭で教育費の優先順位は高い。したがって、学費に関しては教育材料費等と負担にならない金額を設定するように心がけていく。学費納入が滞った場合の対処に苦慮している。	4	適正に運営されている。
法令の遵守	個人情報保護	各部門に管理者を配して、保護活動を図るとともに対策の実効性を高める必要がある。	4	適正に運営されている。
	学校評価	自己点検・評価報告書を全項目WEBに掲載している。学校関係者評価は職業実践専門課程の設置学校で実施し、その報告書はWEBに掲載している。	4	適正に運営されている。
	教育情報の公開	学校の概要や教育内容はWEBに掲載している。教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	3	適正に運営されている。